

青山御所旧建物の民間への下賜に関する研究

建設工学専攻(修士課程) 501121 伊藤公美子

建築史研究 指導教員 伊藤洋子教授

■1 研究の背景と目的

近代の東京において、皇居(宮城)や御所の建物を建替える際に不要となった古い建物を民間等へ下げ渡した経緯がある。しかしながら今日に至るまでその下賜における建物の実態及びその内容についてはほとんど知られていない。これらの下賜建物は、その時代の最高の技術・材料を用いて建造されたものであり、その価値は高く、それらを記録として保存することは、文化的側面からみても重要であると考えられる。

本研究は、戦前の新聞検索を行い、昭和15年3月15日付朝日新聞記事より青山御所旧建物の下賜の事実を認識し、昭和15年3月15日付で下賜決定したこれらの青山御所旧建物に着目し、①下賜先に決定された団体と皇室との関係性について、②下賜前後の建物の変遷について、以上の2項目を明らかにし、皇室関連建物の下賜の実態を考察するものである。

■2 研究の方法と調査対象について

本研究の方法は、宮内庁書陵部にて所蔵文書の検索、下賜先団体への聞き取り、関連史料及び必要に応じて実測調査を行うものである。

本研究の対象である青山御所旧建物は、赤坂離宮と同一郭内に在り、もと紀州徳川家献上の邸で、明治初年以來英照皇太后、昭憲皇太后の御所となり大正天皇、昭和天皇の御殿としても使用されたことのある由緒深い建物である。関東大震災以来修理を加えられなかった表御殿の方が、取り壊されて民間へ下賜されることとなり、本御殿を除く表玄関・事務室・応接室・貴賓室など建坪合計820坪余りが、皇紀2600年を記念して昭和15年に下賜決定された。青山御所旧建物下賜先の団体と下賜された建物と下賜後の現状についてまとめたものを表1に記す。

表1:青山御所旧建物下賜先団体一覧

下賜先	現住所	下賜された建物の規模	建物の現存
明治神宮	東京都渋谷区	木造瓦葺(一部銅板葺)平家 建坪百五拾五坪貳合四勺四寸	× 戦災にて焼失
大連神社	中国大連市解放街	明治神宮へ下附材ノ一部 (角柱10本)	× 戦災にて焼失
皇典講究所	東京都渋谷区	木造瓦葺平家 建坪九拾八坪貳合八勺五寸	× 昭和40年撤去
東京市	東京市	木造瓦葺平家 建坪七拾八坪九合七勺七寸	不明
修養団	東京都渋谷区	木造瓦葺平家 建坪百九拾八坪〇合八勺四寸	× 平成元年ころ撤去
法然院	京都市左京区	木造瓦葺平家 建坪六拾八坪老合五勺参寸	不明
大聖寺	京都市上京区	木造瓦葺平家 建坪六拾六坪八合参勺〇寸	○ 本堂として現存
光照院	京都市上京区	木造瓦葺平家 建坪七拾八坪六合五勺二寸	×
松葉保育園	東京都板橋区	木造瓦葺平家 建坪六拾四坪参合〇勺九寸	× 昭和58年撤去
至誠学舎	東京都立川市	木造瓦葺平家 建坪四拾五坪六合〇勺七寸	×

■3 下賜先団体について

青山御所旧建物の下賜先団体について調査を行ったところ、これらは、下賜決定以前より皇室と何らかの縁があることがわかった。それらは以下のパターンに分類できる。

① 皇室と古くから縁のある団体への下賜

例えば、大聖寺・光照院は天皇息女が歴代門跡として入室さ

れており、法然院の方丈は文禄4年(1595)に後西院天皇息女、誠子内親王の御座所を賜って移建したものである。各々が古くから皇室と関係の深い寺院である。このように皇室縁の京都の寺院においては、近代以前より京都御所の建物の下賜が行われていた。

② 慈善団体への下賜

慈善団体系への下賜が見られ、修養団・松葉保育園・至誠学舎がこれに分類される。これらの団体は、青少年育成や福祉事業を行っている。

③ 縁の学術団体への下賜

國學院大学の前身である皇典講究所は、明治15年(1882)に皇室の援助や歴代総裁宮をはじめとする関係者の手で築かれた。

④ 皇室と縁のある土地への下賜

御所のある東京近郊(東京市)など皇室縁の土地への下賜である。また、皇典講究所においては、大正12年に渋谷氷川裏の御料地(現渋谷若木か丘)に校舎を移転した。このように皇室縁の団体においてはその土地を下賜されることもあったといえる。

⑤ 明治神宮・大連神社

神社への下賜は、この時代特有のタイプといえる。特に戦中の満州国に設置された大連神社は、日本国の威光を示す手段の一つとして青山御所の建物を下賜したと推察できる。

以上のように下賜の分類を行ったが、①～⑤をさらに3つに分類できる。まず①のように皇室と直接縁のある団体において古くから皇室関連の建物の下賜が数多く行われていたものと、②・③・④のように近代以降、つまり帝都が東京に移ってから増えたと考えられる下賜のタイプがある。そして、⑤の各神社のように戦時中という特有な時代背景を担ったタイプの下賜も行われていた。

■4 下賜建物の転用について

青山御所旧建物の下賜先を追跡した結果、大聖寺に下賜建物が現存していることがわかった。また、明治神宮・松葉保育園・至誠学舎には、下賜後の建物の転用について確認できる史料(図面・写真・文書)が残っていた。これら4団体について、下賜前後の平面を比較し、建物をどのように転用したかを分析する。(表2～5参照)図1は、青山御所の下賜部分を彩色で示されている平面である。

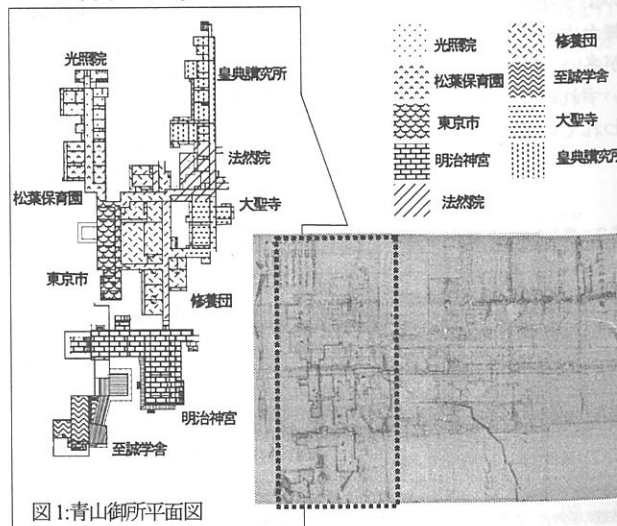


図1:青山御所平面図

表2:明治神宮の転用について

明治神宮	建築的特長	基礎・布石地形・土木造平家建 屋根瓦葺 壁外部ハ漆喰塗及板張り 内部壁漆喰塗 天井板張 床カ板張及畳敷トシ 建具硝子戸、板戸、襖、建トス
移築年/取壊年	昭和15年/昭和20年戦災焼失	

■平面変遷

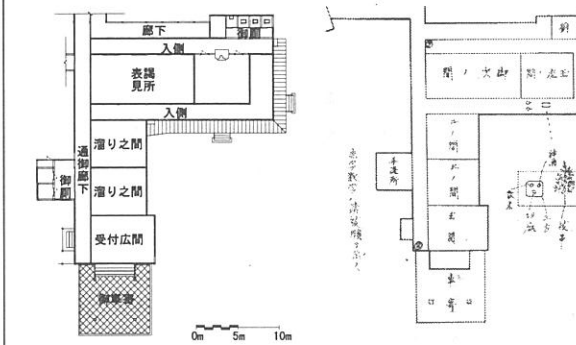


図2:下賜前平面図

■分析

明治神宮に下賜された建物は、青山御所で表謁見所として使用され、ここで明治天皇が英皇皇太后と能を天覧されたことがある由緒深い建物である。平面変遷は、図2と図3を比較して判るように、ほとんど改造されておらず元の平面を活かして使用されていた。下賜後は、「貴賓館」として神主の研修所として使用されていたが、通常は使用されていなかった。

表4:至誠学舎の転用について

至誠学舎	建築的特長	高床、床下は石の目に柱建であったそうである。また、建物は、床は板敷、壁は漆喰塗板張であり、窓枠は木であった。床の厚さは、約3cm(一吋)あったという。
移築年/取壊年	昭和17年/昭和39年ころ	

■平面変遷

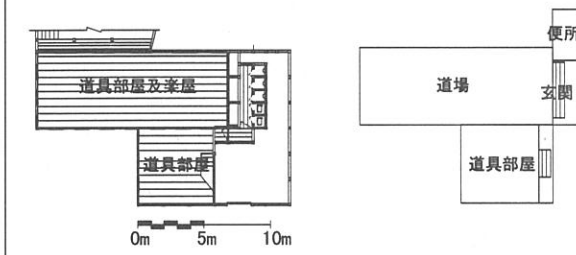


図8:下賜前平面図

■分析

下賜建物は、能舞台に附属する楽屋、道具室として使用されていた。下賜後は、柔道場または集会場として用いられていた。平面変遷は、図8と図9を比較して判のように、道具部屋と楽屋脇の便所が取除かれ、玄関と新たな便所が設置された以外は、ほとんど改造されておらず元の平面を活かして使用されていた。

■5 まとめ

皇室関連建物の下賜は、歴史的にみても通常のこととして行われてきた。このような皇室関連建物は、皇室と全く縁のない団体へは下賜されておらず、何らかの縁がある団体へ下賜されている。

青山御所旧建物は、古くから縁の深い京都の寺院(宮家系列)への下賜、東京の慈善団体及び学術団体・縁ある土地への下賜、戦時下の時代背景を反映した神社への下賜が行われており、いずれの団体も皇室と縁の深い団体である。

青山御所旧建物下賜は、皇紀2600年記念の奉祝行事の一つとして行われており、それは、天皇制の権威づけ、国威発揚の絶好の機会として捉えられていた。また、昭和15年当時戦時下でもあり物質不足が蔓延していた。そのような世相の中で、青山御所旧建物に使用されていた良質な材木は一般の人々にとっては貴重なものであったであろう。つまり、青山御所旧建物下賜は、皇紀2600年記念の一つそして天皇の威光を示す記

表3:松葉保育園の転用について

松葉保育園	建築的特長	基礎・布石地形・土木造平家建 屋根瓦葺 壁外部ハ漆喰塗及板張り 内部壁漆喰塗 天井板張 床カ板張及畳敷トシ 建具硝子戸、板戸、襖、建トス
移築年/取壊年	昭和15年/昭和58年ころ	

■平面変遷



図4:下賜前平面図

■分析

平面変遷は、図4～図6を比較して判るように、間仕切りや玄関・便所などの細かな改造以外は、ほとんど改造されておらず元の平面を活かして使用されていた。その後、昭和38年の建替えて図7の示す約10坪の記念館として縮小された。これは、居室の一室を利用して改造されたと考えられる。いずれも下賜後は、保育園の施設として使用されていた。

表5:大聖寺の転用について

大聖寺	建築的特長	基礎・布石地形・土木造平家建 屋根瓦葺 壁外部ハ漆喰塗及板張り 内部壁漆喰塗 天井板張 床カ板張 建具硝子戸、板戸、襖、建トス
再建年	昭和18年	

■平面変遷

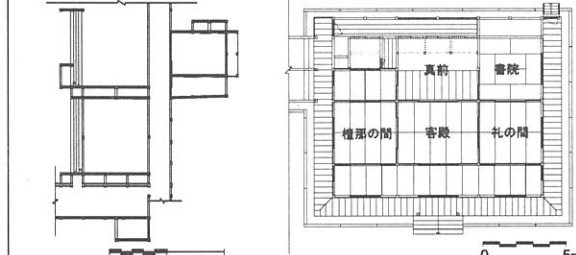


図10:下賜前平面図

■分析

現在、本堂として使われているものが、青山御所より下賜された材木を用いて建てられたものである。本堂は方丈形式の平面を持ち、外周では柱上に舟肘木、疎垂木、入母屋瓦屋根の建物である。客殿(室中)と向脇間境に竹の節欄間を配し、ほか、縁欄間、白漆喰小壁の意匠を持つ。

念の意味合いの強い下賜だけではなく、同時に当時の材木不足を供給する目的もあったと考えられる。

明治神宮・大連神社・修養団などは、記念的な意味合いの強い下賜が行われたとその下賜内容から考えられる。大聖寺・松葉保育園・至誠学舎などは、記念の意味合いも含まれているが、むしろ材木下賜を強く望まれた下賜であったとその下賜内容から考えられる。

- 主要参考文献
1)『大臣官房総務課 昭和十五年恩賜録 六 賜物 登録第八九参五〇号』宮内庁書陵部
2)『昭和15年自一月至六月 社務月誌 上 明治神宮』
3)『昭和15年自七月至十二月 社務月誌 下 明治神宮』
4)大連神社八十年祭奉賛会『大連神社八十年史』昭和62年
5)学校法人國學院大學國學院大學校史資料課編『國學院大學百年史下巻』平成6年
6)修養団運動八十年史編纂委員会『修養団運動八十年史』昭和60年東洋館出版
7)『大聖寺日記』
8)社会福祉法人松葉の園児童養護施設まつば園保育所松葉保育園編『松葉の園要覧(事業計画概要)』平成14年度
9)至誠学舎福祉振興会編『至誠学舎の90年』平成14年